

令和4年度指定管理運営業務評価票

資料4

指定管理者：少年自然の家共同事業体		指定期間：平成28年4月1日～令和8年3月31日			所管課：市町村教育室地域教育振興課	
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価		評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準 ごとの評価	
			S～C		S～C	S～C
I 提案の履行状況に関する項目						
(1)施設の設置目的及び管理運営方針	①社会教育施設としての設置目的及び管理運営方針に則り運営がなされているか	施設の設置目的である心身ともに健全な青少年育成を図るため、利用団体と事前にプログラム内容の相談と利用打合せを行い、教育的な目的・効果を考慮して体験活動の提供ができるように努めている。また、目的達成のために常にプログラムの充実を図っている。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの運営に努めている。	A	利用目的や活動内容に応じたプログラムを提供するとともに、適切な指導を行うことで、子どもの多様な体験活動の機会を充実し、心身ともに健全な青少年の育成を図っている。	A（3）	A
	②法令遵守の取組み状況は適切か	法令遵守について、施設整備における各種法定点検は、問題なく実施している。施設運営にかかわる消防法、旅館業法、食品衛生法などの各種法令を遵守するとともに、「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン」（日本旅館協会作成）や「大阪府新型コロナウイルス対策本部」の方針に基づき、感染症対策を実施した。また、労働基準法に基づき、職員がオーバーワークにならないよう、適切な労務管理を行っている。	A	消防法、浄化槽法など施設関係法令を遵守するとともに、保守点検を計画どおり実施し、適切な施設管理・運営を行っている。また、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策として、「大阪府新型コロナウイルス対策本部会議」の方針や業種別ガイドラインに基づく対策を講じている。	A（3）	A
(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果	①利用承認、事業の実施等において平等利用が確保できているか	常に公平性を重視し、利用案内や利用承認、事業の実施を行っている。 （利用案内） 府民に広く平等に情報提供が出来るように、インターネット配信や地域コミュニティ広報への掲載を依頼している。事業にあたってはチラシを府内図書館、区民センターなどに配布するとともに広く府民に周知するため、ホームページ、youtube、facebook、インスタグラム、LINE、外部の情報サイト「いこーよ」も積極的に活用した。 （利用承認、事業の実施） 学校団体に対しては一定の申込期間を設けた上で、利用希望日程が重複した場合には抽選を行っている。事業受付も申込開始日を設定したり、申込多数が予想される場合は抽選制にしている。施設の利用場所や時間については各団体に希望を聞き取り、公平性を欠くことが無いように対応している。	A	申込及び日程調整の方法を定め、ホームページに掲載し、情報提供している。 日程の希望が重複した際は、抽選を行うとともに、体育館等の施設利用の事前打合せを実施することで、平等利用を確保している。	A（3）	A
	②障がい者、高齢者、外国人等に対する案内等の配慮は適切か	（研修の実施） 構成団体の自主研修では「人権研修」のプログラムを必須とし、職員全員が受講している。 （障がい者、高齢者、外国人に対する案内等） 障がい者、高齢者に対しては打合せ等を十分に行い、支援体制を整えている。具体的には階段を使わずに入室できるフロアの割当や、車いす仕様車で所内移動を支援した。貸出用車いす、風呂には介護用風呂椅子を常備している。また、障がい者向けの第三浴室を常時湯が使えるようにリニューアルした。外国人の利用はほとんどなかったが、多言語対応を実施している。 （食事の提供） 利用者に食物アレルギー調査を行い、該当の場合はアレルギーの除去食および代替食の提供をしている。食事制限（糖質や脂質制限）や嚥下障がいのある方への対応を行っている。宗教上の理由で対応食が必要な場合は可能な範囲で除去および代替食を提供している。	A	車いすを利用する方の施設内移動に、専用車を使用している。食事の取扱いについて、アレルギー調査票に基づき、除去食や代替食を提供している他、嚥下機能に障がいのある場合は、食形態を調整した食事を提供している。 また、様々な理由により対応食が必要な場合は、代替食を提供できるよう努めている。 様々な掲示物を大きな文字やイラスト表記のあるものを用いている。障がい者用の浴室を利用しやすいように改修し、運用していることは評価できる。	A（3）	A

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価			評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準	評価	
					ごとの評価		
S～C	S～C	S～C					
(3)利用者の増加・サービスの向上を図るための具体的手法・効果	①日帰り・宿泊合計の年間利用者数						
	令和4年度目標 合計 74,232人 宿泊数 37,705人 日帰り数 36,527人	・利用者実績（11月末時点）：65,440人（12～3月の予約人数は9,877人） ・年間利用者見込み（11月末時点）：合計75,317人 内訳 宿泊 39,693人/日帰り35,624人 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、学校団体利用の多い第一四半期はH30年度の80%の利用があった。第二四半期はレッドステージに移行するなど影響し、連泊団体のキャンセルなどがあつたためH30年度の71%程度に落ち込んだが、10月以降は昨年に引き続き、春からの延期による学校団体の利用により利用が増加した結果、年間の予約数は目標を上回っている。		実績（11月末時点）：65,440人（目標値の88.2%） 内訳 宿泊32,300人/日帰り33,140人 新型コロナウイルス感染症の影響が残る中であっても、積極的な広報等を実施し、目標を達成する見込であることは評価できる。	A（3）		
	②施設・設備への投資が適切になされているか						
	・バーベキューガーデンの整備と利用促進	（施設・設備への投資） これまで利用受け入れが難しかったファミリー層、小グループなどの一般利用を増やすことを目的に「バーベキューガーデン奥貝塚」を平成30年3月16日に設置。建築費用は9,760,000円（72回リース・平成30年3月より開始）。今年度の投資額は1,860,012円（リース料12回分） （利用状況及び利用促進） 「バーベキューガーデン奥貝塚」には11月末までに1,262人の利用があった。昨年955人に比べて若干増えたものの、年間目標5,600人の達成は難しい。一般利用がコロナの影響で増えない中、利用促進としてバーベキューガーデンにて6月「ホタルの夕べ」、7.8月「BBQアールバック」、12月「グッチオープンイベント」を行った。また、各種事業の活動場所としても有効利用している。 バーベキューだけではなく、かまどや水場の機能を活かすため、バーベキューガーデン内および周辺に3か所のテントサイトを整備し、家族、小グループ向けのテント場として人気である。		バーベキューガーデン内及び周辺にテントサイトを整備した。 また、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中で、昨年度より利用者が増加したことに加え、利用者の要望やニーズに応じて様々なイベントを企画し、利用促進のための工夫を行っている。	B（2）		
	③主催事業が適切に実施できているか						
・事業数 令和4年度目標 5事業 5回	令和4年度実績：5事業 5回 中止なく、年間計画の全事業を実施済。		実績：5事業 5回（達成率：100%） 目標を達成している。	A（3）			
・参加者人数 令和4年度目標 263人	令和4年度実績：229人 「絵本のひろば」と併催した「秋たっぷりDAY」を、新型コロナウイルス感染症対策として、定員を減らした申込制としたため、目標未達となった。		実績：229人（達成率：87.1%） 新型コロナウイルス感染症対策として、定員を減らした中、目標に近い229名の参加者を確保できている。	B（2）			
・内容（教育効果・参加者満足度・広報等）	全般的に野外活動への要望が高まった結果、前年と同様に事業への申込数が増加した。 新型コロナウイルス感染予防を強化しながら、家族を対象とした募集事業や、回数を増やして参加者を分散するなどの工夫をしながら実施した。 「絵本でいただきます」は絵本に登場する食の疑似体験活動を組み合わせることにより、参加者には絵本の世界観をより深く感じてもらい、読書活動推進事業の一端を担えた。 宿泊プランも選択できるようにし、より親子で絵本に触れる時間を楽しめて好評だった。 「絵本のひろば」は、「秋たっぷりDAY」と同時開催とした。貝塚市立図書館に協力を仰ぎ、秋の自然など魅力的な内容の絵本を、ホールに選びやすく配置し、寝転がったり自由な体勢で読めるようにするなど、絵本と親しむ事業となった。 「中高生チャレンジキャンプ」「子どもワイルドキャンプ」は、昨年度は新型コロナウイルス感染症対策で2泊3日に日程を短縮したが、今年度はそれぞれ3泊と4泊に戻すことができた。新型コロナウイルス感染症対策の一環として、屋外でのソロキャンプで行い、協力しあって共同生活を楽しくする工夫した。 「防災キャンプ」は台風接近により日帰りでの実施となったが、家族での「自助」をテーマに実施し、実際の避難所生活を模した体験や、非常食体験、新聞紙を用いた食器づくりなどの防災体験を行うことができ、参加者からも防災意識を高める良い機会になったとの意見が多かった。	A	新型コロナウイルス感染症の状況に応じて対策を強化しながら、募集回数を増やすなど、工夫を行っている。また、近隣図書館に協力を仰ぐなど、事業内容の幅を広めている他、防災意識の醸成の機運が高まる中、「防災キャンプ」により参加者の防災意識を向上させるなど、教育効果を高めている点も評価できる。	A（3）	A		
④広報・情報発信の取組みが適切になされているか	大阪府と連携して各種広報活動を展開している。 （広報物の工夫）事業チラシは年間行事の案内をはじめ、各事業ごとに両面カラーを採用し、興味を引くようなデザインを心がけている。 図書館、公民館、コミュニティセンターへの送付便を利用して主催、自主事業などのチラシを配架している。過去の事業参加者にはダイレクトメールを2か月に1回の割合で約580部を送付している。 貝塚市の広報誌へ毎月事業の案内を掲載依頼している。 情報は随時ホームページやSNSに掲載し、民間のweb媒体（いこー・イベントバンクなど）を利用し、情報を提供している。 （その他取材記事の例） ・Viva泉州ブログ（NPO法人自立生活センター・リアライズが運営する、泉州地域のバリアフリー施設を紹介するブログ） ・読売新聞 ・人気youtuber（積分サークル）による利用体験動画掲載 前・中・後編 96万回再生（SNSフォロワー数） 施設周辺地域のスポーツ団体や、学生団体などのアカウントをフォローすることでフォローバックや団体での利用を促進している。 Instagramフォロワー 5 5 1 人→1 0 0 1 人、Facebookフォロワー 7 0 8 人→7 6 9 人、LINE 5 6 9 人→7 6 9 人 （有料WEB広告の活用） 冬の事業においてFacebookとInstagramで有料広告を実施。エキテンやWalkerplusなど、無料web媒体掲載も増加させた。 youtubelはこれまで1 8 0 0 0 回再生されている。		チラシの内容やデザインを工夫するとともに、地元の広報誌や新聞、インターネット等の様々な媒体を利用し、幅広く広報を行っている。 新型コロナウイルス感染症対策をホームページやInstagram等に掲載するとともに、予約団体に対しても周知し、利用者が安心して、利用できるよう情報発信がされており、適切な広報活動が行われている。 また、新規利用者の獲得だけでなく、過去の事業参加者に事業参加を呼びかけるダイレクトメールを送るなど、幅広く利用者を獲得しようとしている。さらに、Instagram、facebook、LINEのフォロワーも増加しており、SNSを有効に活用している点は評価できる。	S（4）			
⑤利用者サービス向上の取組みが適切になされており、効果をあげているか	（利用者サービス向上の取組み及び効果） 過去5年間の団体代表者に対して一年前の予約開始時期を知らせるFAX又はハガキを毎月発送し、予約忘れを防げると好評である。 新型コロナウイルス感染による予約の保留や変更が多くあったが、利用者との相談の上、柔軟に対応した。 新型コロナウイルス感染症対策により、団体の打ち合わせや下見が制限されたため、希望の場合は電話やメール、オンライン会議等で対応した。 施設の様子が映像で確認できるように、youtubeチャンネルに施設の紹介動画をアップし、利用団体へ案内した。18000回以上閲覧されている。 感染予防のために事業はすべて事前予約制としており、受付の簡略化を図るため事業ごとにQRコードからメール申込できるようにし、チラシに掲載している。申込の約半数はQRコードによる申込となっている。 新たな取組みとして、「お泊りバック」など事業の入所案内を、タブレット端末を活用した動画による説明とした。利用者から「わかりやすい」と好評を得られた。		新型コロナウイルス感染症の影響により、団体の打合せや下見が制限されたため、施設の様子がわかるよう、YouTubeチャンネルに施設の紹介動画をアップするなど、利用者のサービス向上に取り組んでおり、評価できる。	A（3）			

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価			評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準	評価	
					ごとの評価		
S～C	S～C	S～C					
(4)施設の維持管理の内容、的確性及び実現の程度	①維持管理の内容は効果的で適切か	大阪府との年間業務委託・保守点検計画に基づき日常点検とメンテナンスを実施。適用する関係法令を遵守するとともに、専門的な知識、技能を有する業務は専門業者により実施している。 （点検及びメンテナンス業務） 消防用設備点検 LPガス強制気化装置（ペーパーライザー）保守点検 ガス温水器排ガス測定 電気工作物保安管理 警備保安管理 ボイラーの運転 温水ヒーター（ボイラー）点検 浄化槽検査 専用水道施設維持管理 受水槽・高架水槽清掃 灯油地下タンク点検 汚水処理施設維持管理及び汚泥搬出 建築基準法に基づく定期点検 敷地内除草 防火対象物点検 特別清掃 空気環境測定 害虫防除 公用車点検整備 ごみ回収 各種点検等で指摘事項があれば、修繕等、迅速に対応している。 点検結果については、所轄官庁へ提出するとともに、大阪府と連携し、日常の安全管理に努めている。 防火対象物点検では、消防法令の遵守状況が優良であると認められ、貝塚消防署より防火優良認定を受けている。		法令を遵守した法定点検等を実施し、利用者が安全・快適に使用できるよう適切に維持管理を実施している。	A（3）		
	②施設管理に関する経費の執行状況は適切か （正当な理由なく、修繕費の実績（具体的な予定額を含む）が計画の90%を下回る場合は、「C」評価とする。）	緊急性が高いものは即時対応し、通常の修繕は優先順位をつけて実施した。修繕費の年間予算3,850,000円に対して12月末において3,761,185円を執行済。 【主な修繕】 カリオンホールの鐘修理復旧 大浴室混合栓取替 浴場ろ過機ポンプ配線修理 宿泊棟リーダー室エアコン電源改修工事 厨房処理室プレハブ冷凍庫自動給水弁不良箇所修理 食堂入口天井裏の浴室給湯配管からの漏水箇所の修繕 登山道整備など	A	12月末現在の執行状況は年間予算の97.7%となっており、経費の執行状況は適切である。	A（3）	A	
	③施設の規模・機能にみあった管理体制・危機管理体制が確保されているか	（管理体制・危機管理体制の確保） 大阪府新型コロナウイルス対策本部会議の方針に基づき、利用者が安心・安全に利用できるように努めた。 ・「感染防止認証ゴールステッカー」を取得、認証基準項目はすべてクリアしている。（提供カウンターにおける飛沫防止カーテンの設置、シーリングファン・空気清浄機による換気促進、CO2測定器設置、食堂・軽食コーナーへのパーティション設置など） ・定期的な換気と「大阪コロナ追跡システム」の登録について、受付時やオリエンテーションで口頭で伝えるとともに、館内アナウンスやポスターの掲示を実施 ・施設要所にアルコール消毒液を設置 ・施設設備等の消毒（手すり等ある共用場所・箇所の消毒） ・事務所飛沫感染防止用のビニールカーテンの交換 ・利用者の検温等健康調査の実施（職員・従業員についても実施） ・食堂の食物アレルギー対応強化（アレルギーマニュアルの作成） ・宿泊部屋、食堂、活動場所、風呂などヘソソーシャルディスタンスの協力要請 ・緊急時の備蓄品確保 ・打合せや受付時に「新型コロナウイルス感染症対策」に伴う施設利用についてのお願いを配布、説明している。万が一利用者が発熱などの感染の疑いがある場合は「感染の疑いがある利用者の対応フローチャート」に従って迅速な対応を行なっている。		今年度、台風や地震などの大きな災害は発生していないが、すべての職員が定期的に「危機管理マニュアル」を確認し、危機事象発生時には、迅速適切に対応ができるよう努めている。 「大阪府新型コロナウイルス対策本部会議」の方針等に基づき、利用者の利便性も考慮した上で、適切に感染症対策を行っている。	A（3）		
(5)府施策との整合	①府・公益事業協力等の実施状況は適切か	○「おおさか元気広場出前講座」の実施 大阪府が実施する「教育コミュニティづくり推進事業」の、「おおさか元気広場出前講座」を実施し、野外体験の機会を提供している。今年度は2回実施予定（1回目は8月3日に実施済） ○公民館事業への協力 依頼があった公民館へ協力を行い、職員を派遣し、外部講師を務めた。（貝塚市・和泉市） ○「山岳救助訓練」場所の提供 大阪府消防局、貝塚・岸和田消防本部などに協力し、山岳救助訓練の場所を提供した。 ○その他 ・「なにわなんでも大阪検定」の合格者特典進呈、「まいど子どもカード」への協力を実施。 ・9月「防災の日」、11月「子どもの読書月間」等の様々な啓発に協力している。 ・貝塚市の代替避難所として協力 令和4年10月24日～令和5年1月31日の期間、隣接施設「かいづか いぶき温泉（旧ほの字の里）体育館」の工事に伴い、貝塚市の指定避難所として体育館を、災害用備蓄品の保管所として浄水倉庫を提供した。 ・いぶき温泉における一般企業のイベント開催において、駐車場スペースの貸出に協力した。		「おおさか元気広場出前講座」や「山岳救助訓練」の場所提供など、府や市町村の事業に協力している。 また、貝塚市に協力し、同市施設の代替避難所として少年自然の家施設を用意するなど、自治体との連携について積極的である。	A（3）		
	②行政の福祉化の実施状況は適切か	・知的障がい者1名を清掃業務担当として継続雇用している。 ・大阪府商工労働部と連携し、高齢者就労自立支援事業の就労場所として施設を提供している。		知的障がい者を継続雇用しているほか、高齢者就労自立支援事業に協力し、高齢者の就労場所を提供している。	A（3）		
	③環境問題への取り組みの実施状況は適切か	・節電キャンペーンのポスター掲示、節電巡回の実施、デマンド監視装置設置などで電力需要とCO2排出の抑制に努めた。 ・利用者に持込ゴミの持ち帰り又は有料引き取りを実施することによりゴミの減少に努めている。また、夏期の客室エアコン利用時間については入所の時間に合わせた。夜間のフリースペースとしての食堂のエアコン利用時間を23時までと案内している。 ・資源ごみは業者に処分を依頼している。 ・食堂にはCO2センサーを設置している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少したことに伴い、施設利用の無い日等の節電・節水を職員に呼びかけ、節電・節水に努めた。 ・館内照明をLED照明へ置換を進めている。	A	デマンド監視装置を設置し、最大需要電力を抑制し、節電の取り組みを行っている。また、利用者がいない時に、職員に呼びかけ節電等を行い、光熱水費の抑制に努めている。また、LED照明への置換を行うなど、施設面からも節電に取り組んでいることは評価できる。	A（3）	A	
	④府民、NPOとの協働の実施状況は適切か	（府民との協働） 大学生、社会人を主体とした専属リーダー「そぶりだ」を大学生を中心に継続的に募集し、主に事業のサポートリーダーとして活躍している。現在登録数は46人。 大阪教育大学（7名）、大阪体育大学（5名）からのインターンシップを受け入れた。事業補助や利用者対応など、幅広く実習の機会を提供した。 シニア中心の「和泉葛城ネイチャー」「レクリエーションプログラム協力者連絡会」には施設内の環境保全、自然工作や観察などの指導、炊飯やレクリエーション、キャンプファイヤーの指導などを依頼している。 「自然の家オープンデー」に代わる「秋たっぶりDAY」では、貝塚市消防本部、貝塚市民図書館、貝塚市観光協会などに協力を依頼した。また、他にも「走り方教室」のスポーツ指導員や、地元で採れる果物の販売など、民間からも協力をいただいた。 （NPO法人との協働） 自主事業「ツリーイングクライマー資格認定講習」「親子de自然のようちえん」「72時間サバイバルコーチ養成講座」の講師や、団体から野外活動の指導依頼があった際は、NPO法人等からの講師を派遣依頼している。 （その他） 大阪府キャンプ協会30周年記念事業コラボ事業として、1月のたき火事業に大阪府キャンプ協会専門委員による防災クッキングを共催。		大学生や社会人のボランティアリーダーを引き続き活用しているほか、昨年度よりインターンシップの受け入れが増加している点を評価したい。 また、「秋たっぶりDAY」では、府民等と協働で開催するなど、府民やNPOとの積極的な連携を実施している。	A（3）		

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価			評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準	評価	
					ごとの評価		
			S～C		S～C	S～C	
II さらなるサービスの向上に関する事項							
(1)利用者満足度調査等	・利用者満足度調査を実施し、分析結果をフィードバックしているか	（アンケート調査の実施）利用団体には「施設利用」「活動プログラム」「バーベキューガーデン奥貝塚」についてアンケート調査を実施している。 （アンケート調査の回収率および調査結果の反映） 「施設利用」のアンケートの回収率は11月末時点で92%となっている。団体代表者だけではなく、個々の利用者からの意見や要望については対応内容とともに施設内の掲示板やホームページに公開している。アンケート結果は会議に議題として取り上げ、優先順位をつけて対応している。事業においても必ずアンケートを実施しており、事業実施の参考になっている。一部の事業ではアンケート協力をいただいた参加者にwebアルバムから写真データをダウンロードできるように案内することで、回収率のアップを図った。	A	利用者満足度調査を実施し、回収率も9割を超えている。個別の事業に対するアンケートも実施することで、細やかな分析をすることができており、分析結果については、組織として検討、対応するなどのフィードバックができています。	A(3)	A	
(2)自主事業	①施設の設置目的に応じた事業が適切に実施されているか						
	・事業数 令和4年度目標 11事業	令和4年度実績（11月末時点）：3事業6回（中止除く） 令和4年度予定：10事業18回		実績（予定含む）：10事業（達成率：90.9%） 活用予定の果実が不作で実施できない事業があった。 実績（予定含む）：532人（達成率：92.0%） 実施できなかった事業や、雨天中止の日もあり、目標をやや下回った。	B(2)		
	・参加者人数 令和4年度目標 578人	令和4年度実績（11月末時点）：204人 令和4年度予定：532人			B(2)		
	・内容（教育効果・参加者満足度・広報等）	全体として屋外活動への関心が高まっており、定員に達する事業も多く、アンケートでも自然を満喫できた点をはじめ、高い満足度が得られた。「ガーデンイベント②（ホタルの夕べ）」は家族を対象にホタルの生態について楽しく学んだ後、近隣でホタルの乱舞も見ることができ好評だった。「フォレストジュニアクラブ」は小学生を対象に上期3回実施。テント泊、調理袋を使った野外炊事、ホタルの観察、シャワークライミング、秘密基地づくりなどを行った。「自分で考え、決定する」ことを全体のねらいとし、グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める効果が得られ、高い達成度を感じることができた。当施設の自然を活かした児童向け事業として今後も注力したい。「秋のファミリーキャンプ」はコロナ対策で家族間の交流はできなかったが、逆に家族単位で活動することにより、感染リスクへの安心感と、一家の絆を深める機会ができたことへの感謝が寄せられた。不定期の「おおさか元気広場・出前講座」は新型コロナの規制緩和によりオフシーズンから要請を受けている。（11月末時点2件。見込含め5件、他調整中）	A(3)				
	②その他の自主事業が提案のとおり実施されているか						
・事業数 令和4年度目標 10事業	令和4年度実績（11月末時点）：11事業39回（中止除く） 令和4年度見込：13事業59回		実績（予定含む）：13事業（達成率：130%） 目標を上回る事業が実施された。	S(4)			
・参加者人数 令和4年度目標 1,632人	令和4年度実績（11月末時点）：728人 令和4年度予定：1,379人		実績（予定含む）：1,379人（達成率：84.5%） 事業によっては、参加者が集まりきらないものがあった。	B(2)			
・内容（利用促進につながっているか、利用者満足度等）	全体としては、屋外活動への関心の高まりを想定し、新型コロナによる大口キャンセル分を補うため、前年度に好評だった事業の回数を増やしたが、事業内容により人気に分かれた。ゴールデンウィークに実施した家族対象の「初めてのキャンプにチャレンジ」はキャンセル待ちが出るほどの人気だった。ツリーイングなどプログラムを選べるプログラムを用意し、家族で自由に楽しめる自由さが好評だった。昨年度から始めた人気を集めた新事業「女性のためのソロキャンプ」は春秋各2回に増やしたが、いずれも定員を上回る応募があり、「キャンプを始めるきっかけになった」など非常に満足度が高く、他の施設からも参考にされるほどの事業となっている。小学生高学年を対象とした「プログラミングキャンプ」も昨年からはじめたが好評で、今年度は「マイクラフト」を活用し、仮想空間を創ってコミュニケーションを取るなど、楽しく想像力と創造力を伸ばすことができた。毎年恒例のオープンデイは昨年同様「秋たっぶりDAY」として事前申込制で開催した。新型コロナウイルス感染症対策として定員をさらに減らしたこともあるが、今回も定員を上回る応募があった。貝塚消防署による放水デモンストレーションなど地域の協力も得られ、アンケートもほとんど満足な結果だった。一方、複数回実施している「夏休みお泊りバック」、「BBQプールバック」、「コスプレの森」では参加者がなく中止になる回が目立った（3事業計31回中、11回中止）。次年度は回数や内容を見直すことを検討したい。	A(3)	昨年度までの事業の参加状況や、利用者の反応等を、事業の内容や回数に反映しており、利用の促進を図っている。また、新規利用者の獲得をねらいとする事業にも精力的に取り組んだ。利用者の満足度は高かったが、参加申込数は事業により差があったため、次年度の改善を検討している。				
(3)その他創意工夫	・その他のサービス向上につながる取組み、創意工夫がされているか（危機管理を含む）	感染対策を講じ、安心安全に利用していただきながら、サービス向上に努めた。 ・感染対策のため、打合せに向くことが難しい団体には、電話やリモート会議形式で打合せを行った。事業の受付時の説明は一部タブレットを使用した。また、食堂テーブル人数の増に合わせてパーティションを増設した。 ・4.8月に学校団体を対象とした下見ツアーを実施し、わかりやすいと好評であった。 ・第三浴室のリニューアルにより常時湯が使用できるようになった。 ・アスレチック広場に大型遊具を増設した。 ・昨年に引き続き、野外炊飯の個食メニューを提案したり、炊飯や集団での食事を避けたい団体には手作り弁当の提供を行った。 ・急な災害に備えて、備蓄品として飲料水や防災食、防災グッズなどを揃えている。	A	電話やリモート会議での打合せの実施や、タブレットでの説明等、ICT機器の活用は、感染症対策のみならず、利用者の利便性の向上につながった。他にも、下見ツアーの実施や、アスレチック広場の整備等、利便性の向上や利用者ニーズへの対応に努めている。	A(3)	A	

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者自己評価		施設所管課の評価			評価委員の指摘・提言
		評価内容	評価	評価内容	評価基準 ごとの評価	評価	
			S～C		S～C	S～C	
Ⅲ 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目							
(1) 収支計画の内容、的確性及び実現の程度	① 収支計画の妥当性及び事業計画・管理体制計画との整合性は図られているか	(収支計画の妥当性) 提案時の収支計画は、新型コロナウイルス感染症について想定していなかったことから、令和4年度の収支計画は、新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2、3年度の収支状況を踏まえ、作成した。 (事業計画) 令和4年度の収支計画と整合するように作成した。 (管理体制計画) 令和4年度の収支計画と整合するように作成した。	A	提案時の収支計画を見直し、新型コロナウイルス感染症の影響を勘案した収支計画に変更したことは妥当である。 また、変更した収支計画と事業計画・管理体制計画との整合性が図られている。	A (3)	A	
	② 収支は計画どおり行われているか	4～11月収支（運営管理費除く）について、収入は施設／計画比 105.9%、昨年度比151.7%、食堂／計画比118.9%、昨年度比305.9%。支出は宿泊／計画比105.1%、昨年度比141.7% 食堂／計画比110.9%、昨年度比214.5%という結果になった。		収入、支出ともに、新型コロナウイルス感染症による影響の予測が困難な中、概ね計画どおりのとなっている。食堂における収支がやや計画より高いが、収入の比率の方が高く、良好な状況であると言える。	A (3)		
	③ 収入確保や管理コスト削減の取組みは実施されているか	(収入確保の取組) 昨年に引き続き、可能な限り春から秋への利用時期変更や仮予約を受け入れた。また、近畿の青少年施設閉鎖に伴う初利用の団体受入れがあったが、十分な説明を行い、次年度の予約に繋げている。 夏休みの大型キャンセルに伴い、急遽家族対象の「お泊りパック」を企画するなど、できる限り収入確保に努めた。キャンプブームで屋外施設需要が高まったため、新たに家族や小グループ向けのキャンプサイトを5つ整備し、集客を図った。整備後7/1～11/30の期間で48団体、177人の利用があった。 電気代・食材費の高騰に対応し、十分な告知を行った上で、7月1日より冷房使用料、10月1日より食堂食材費、レンタル代などを値上げした。 (管理コスト削減の取組) コロナ前と比較して職員の数が増えているが、パートを増やすことで不足分に対応した。 光熱費は特に電気、灯油代が高騰したため、利用者に節電を呼び掛けるなどして使用量の抑制に取り組んだ。平成30年度比較で4～11月の電気使用量は87%、灯油の使用料は73%であった。 また、宿直業務や除草作業など外部委託業務の一部を自主で行い、費用の削減に取り組んでいる。		新型コロナウイルス感染症や、キャンプブームの影響に鑑み、柔軟な対応や、設備の整備による利用増を図っている。また、物価高騰の影響に対しても、利用料金以外の諸費用を、利用者への丁寧な説明の上値上げした。 光熱費の高騰に対する使用量抑制や、人件費の見直し等、管理コストの削減も図っている。	A (3)		
(2) 安定的な運営が可能となる人的能力	① 管理運営業務全体として職員体制は適切か	・共同事業体2団体により適切な職員配置を行っており、職員は総括3名、施設管理部門18名（うちパートアルバイト10名含む）、食堂部門14名（うちパートアルバイト9名含む）を配置している。計画時より施設管理部門は減員しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が少なかったことから、職員は増員せず、パートアルバイトを新たに7名雇用するなど、現状に応じた適切な人員配置を行った。	A	新型コロナウイルス感染症による影響が継続中、職員の増員は行わず、利用状況の回復に対しては、パートアルバイトの増員で対応した。	A (3)	A	
	② 事業実施に必要な人員数の確保・配置従事者への管理監督体制・責任体制は適切か	・団体の利用受入れについては、体験活動に精通した社会教育士が助言を行い、学校等の自然体験活動を支援している。 ・事業実施の際には職員を主・副担当として配置し、管理監督の下、参加者の安全、生活面での指導に当たっている。またボランティアリーダーを育成するため、年間を通じて研修を行い、指導面や安全面のスキルアップに取り組んでおり、研修を受けたボランティアリーダーについても、各事業に配置している。		社会教育士による助言や、事業における主担当・副担当の配置等により、適切な管理監督体制・責任体制を整えているが、利用者が安全、快適に利用できるよう、引き続き体制の整備・強化に努める必要がある。	B (2)		
	③ 年間研修計画を策定し、適切な研修体制の整備、職員の指導育成を行っているか	・新人研修は1年目のスタッフがいないため行わなかった。 ・各構成団体が実施する人権研修は職員全員が受講予定である。 ・教育施設関係の会議・研修は、12月の「近畿地区青少年教育施設協議会 所長研修会・基本研修会・専門研修会」に2名が参加。 専任研修としては10月に防災プログラム指導のための「72時間サバイバルディレクター資格」に2名、「キャンプディレクター1級養成講座」に1名参加した。その他、補助制度を使って3名が「日商簿記検定3級」「SDG s 超入門」「1on1メンバーの育て方」等について通信教育を受講している。1月には「ネイチャーゲームリーダー講習会」に3名の参加を予定している。 ・現在社会教育士を令和2年、3年度に1名ずつ取得し、現在有資格者を3名配置している。次年度以降も資格者を増やし、幅広い指導を目指している。 ・教育施設関係の研修及び専任研修については雇用調整助成金の教育訓練による助成を受けることで費用を削減した。 ・保健所主催の「衛生管理講習」は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。		職員全員が人権研修を受講することし、利用者に対して適切な対応ができるようにしている。また、さまざまな研修や講座等を積極的に受講することで、職員の指導育成を行っている。	A (3)		
(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤	① 運営基盤として、事業者の経営状況は健全か	昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、利用者のキャンセル・事業の中止や延期など、大きな影響が出た。ガイドラインを遵守し、利用者の受入れ、事業の実施に取り組んだが、従前の利用者数に回復するにはまだ時間が必要である。事業者として、適正な施設の管理運営・雇用維持・手元資金の確保等のために様々な手段を講じた。コロナ特別貸付を日本政策金融公庫から追加融資を受けたり、雇用調整助成金を利用した。年度末までに利益増を目指し、利用者の回復に取り組んでいる。	B	共同事業体を構成する2団体の令和3年度決算報告によると、新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の厳しさがなお継続している。	B (2)	B	
	② 運営状況として、事業者の財務状況は妥当か	令和4年度の収益状況は両団体ともに厳しい状況に置かれており、上記のように努力している。		共同事業体を構成する2団体の令和3年度決算報告によると、新型コロナウイルス感染症の影響による財務状況の厳しさがなお継続している。	B (2)		

○ 各評価項目について、S（優良）、A（良好）、B（ほぼ良好）、C（要改善）の4段階で評価をする。

○ 評価項目に複数の評価基準があるものは、各評価基準ごとに、S A B Cの4段階で評価したうえで、S（4点）、A（3点）、B（2点）、C（1点）とし、評価基準の平均値が【3.5以上 … S / 2.5以上3.5未満 … A / 1.5以上2.5未満 … B / 1以上1.5未満 … C】で評価をする。

○ 網掛けの項目は、下記の方法により定量評価を行う。

I (3) ① 年間利用者数 … 目標利用者数の【100%以上…S / 目標値の85%以上100%未満 …A / 70%以上85%未満 …B / 70%未満 …C】

※ 少年自然の家では、夏場繁忙期・冬場閑散期という特徴があり、第2期（平成23から27年度）11月末時点の利用者数実績が目標値の約85%であったことから、目標値の85%以上をAと設定する。なお、評価は11月末時点の数値で行う。

その他の項目 … 目標値の達成度が【120%以上 …S / 目標値の100%以上120%未満 …A / 80%以上100%未満 …B / 80%未満 …C】として評価を決定する。（ただし、年度末までの予定数も含む）